

活動報告

団 体 名	認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク
活 動 名	北海道胆振東部地震の被災者のための足湯&カフェ活動
活動期間	2018 年 9 月 ～ 2019 年 3 月
活動の成果	＊要支援者の早期発見と専門職へのつなぎ ・自主避難場所で布団など生活物資が不足している実態を把握し、地元NPOと協力して布団を現場へ提供した。 ・自主避難所の状況を行政機関へ報告し、行政機関も自主避難所への支援の必要性を認識し、ダンボールベッドなどの提供につなげた。 ・スタッフが「足湯&カフェ」の利用者（70代、女性）の下肢の浮腫に気づき避難所の保健師へ情報提供を行った結果、医療機関を受診し入院となった。 ・仮設住宅入居中の女性から騒音（スロープが軟弱で歩行すると女性宅内が振動する）について相談があり、行政機関へ対応を依頼した結果、スロープの補強工事につながった。また、女性が仮設住宅に引きこもり傾向であるという情報が「足湯&カフェ」の利用者から寄せられたため保健師へ情報提供を行った結果、カウンセラーが定期訪問することとなった。 ＊仮設移転や復興支援への不安な気持ちに寄り添う ・避難所での「足湯&カフェ」で一人一人に寄り添った対応を心掛けた。 ・自宅全壊し涙ながらに今後の不安を訴える被災者に一人のスタッフが付き切りで傾聴、複数回「足湯&カフェ」を利用するなかで継続支援したことで、落ち着きを取り戻し、仮設住宅へ転居後は避難者のまとめ役となって、「足湯&カフェ」の協力者となって活動してくれた。 ・震災で友人を亡くした女性は不眠で苦しんでいた、「足湯&カフェ」を継続利用する中で不安も解消し、睡眠薬も不要となり、2月から就労した。 ・仮設住宅「足湯&カフェ」の被災者が、‘自宅TVの音量が隣接のお宅に迷惑を掛けているという不安’があるためTVはイヤホンで聴いているとの話があったため、札幌市立大学と協力し実際に隣接の家で騒音測定を実施し、結果を数値で被災者へ説明、被災者は仮設住宅でイヤホンなしでTVを観れるようになった。 ＊足湯ボラを地元NPOに移行できるよう技術やノウハウを移行し体制を整える ・上記の目的に向けて地元NPOと協力し‘北海道足湯隊’を立上げ、最初は当NPOで必要物品や会場手配、行政機関等との交渉、広報を行った。 ・現地の足湯ボランティア育成講座を実施した。（参加者20名） ・育成講座に参加できなかったボランティアには個別で指導した。 ・毎回の「足湯&カフェ」は‘北海道足湯隊’の現場ボランティアが必ず一緒に活動した。 ・移動手段が確保できないボランティアのために乗り合わせで現地に行けるよう調整した。 ・‘北海道足湯隊’ミーティングを10月～毎月開催し、意見交換や今後の活動予定など情報共有と参加希望NPOへの情報提供を行った。 ・4月～‘北海道足湯隊’は現地NPOが主体となり継続活動している。

	＊課題 ・‘北海道足湯隊’の活動が継続すること。 ・男性被災者が仮設住宅に引きこもり傾向のため、男性も利用しやすい交流スペースを作ること。 ＊今後の活動 ・仮設住宅の被災者から希望のあった‘東日本大震災の被災者の体験談を聞く会’の開催 ・‘被災地復興タオル まけないぞう’活動の提案と現地へのボランティア派遣
寄付者へのメッセージ	皆様からのお気持ちは、被災者の皆さんに届けました。 ありがとうございました。

(活動のようす)



